

小規模校からの発信「地域と連携した教育活動」

丸森町立耕野小学校 校長 馬場 純子

昭和 59 年～ 亘理町立亘理小学校
平成 4 年～ 村田町立村田第二小学校
平成 19 年～ 丸森町立大内小学校
平成 25 年～ 大河原町立大河原小学校

昭和 63 年～ 岩沼市立玉浦小学校
平成 12 年～ 丸森町立小斎小学校
平成 23 年～ 山元町立中浜小学校
平成 28 年～ 丸森町立耕野小学校



宮城県には、約 400 の小学校があります。児童数が 1,000 名を超える大規模校を始め、複式学級を有する児童数 10 名以下の小規模、学校の設置場所も交通の便の良い人口の密集している地域や、沿岸部、公共交通機関から離れている山間地など様々です。それぞれの学校が児童の実態や地域の特性を生かした教育活動を推進しています。

現在勤務している耕野小学校のある丸森町は、福島県との県境にあり、宮城県の最南端に位置しています。耕野地区の人口は 6

82 人（H29.4.1 現在）、高齢化が進み、開校 144 年を迎える歴史と伝統のある学校の児童数は年々減少しています。地域の学校を愛する思いは深く、地域全体で子供たちを育てていただいています。美しい自然、悠久の歴史の中で築かれた文化遺産、地域の活性化につながっている特産物など、教育活動に生かせる地域素材がたくさんあり、学校教育の中に積極的に取り入れています。



複式学級の授業

平成 29 年度の本校の児童数は 9 名です。児童数が少ないため、2 つの学年の児童を同時に指導していく複式学級が 2 つあり、教員は指導内容の組合せや指導方法を工夫して授業を行います。校内研修を通して、ベテランの教員も新任の教員も、「わたり」や「ずらし」という複式学級における指導方法を学びます。また、「授業で勝負」できるよう、年間を通して指導案検討会・模擬授業・研究授業・事後検討会を行い、お互いの授業力を高めます。児童の実態を把握し、ねらいを明確にし、「分かったよ。」「できたよ。」と子供たちが生き生きと学ぶ授業を展開することは、教員としての醍醐味です。

児童数と学級数				
学年	男	女	計	備考
1 年	1	0	1	複式
2 年	0	1	1	
3 年	1	1	2	
4 年	0	0	0	
5 年	1	0	1	複式
6 年	3	0	3	
たけのこ	0	1	1	特別支援
合計	6	3	9	





5・6年担任 目黒 裕子

大阪府で4年間の教員経験を経て、平成28年度に耕野小学校に赴任いたしました。1・2年生の担任として、先輩の先生方から、複式授業の基本を教えていただいたり、授業を見ていただいたりしました。これまで経験したことのない複式の授業に戸惑うこともありましたが、子供たちの笑顔と何事にも一生懸命取り組む姿、保護者や地域の方々の温かな励ましに支えられて充実した日々を送っています。

今年度は、5・6年生担任、研究主任として「耕野の青竹」のように、子供たちと共に教員として大きく成長したいと思っています。

山村留学生の受入れ



耕野小学校では、平成26年度から、地域の「山村留学推進の会」と連携して、都会に住む児童を対象とした山村留学生の受入れを行っています。平成27年度には3名、平成28年度には5名が、東京・埼玉・沖縄・アメリカ等から、山村留学生として里親の家に住み、耕野小学校に通学していました。山村留学児童は、学校の教育活動に加えて、遊びや自然体験、地域住民との温かい交流を通して、たくましく成長していきます。今年度も、東京都からの山村留学児童を含め、全校児童9名が仲良く活動しています。担任を始め、養護教諭や教頭等が「山村留学推進の会」の方々や山村留学児童の保護者、里親と連携して関わることで、児童は安心して生活することができています。不安げな表情が和らぎ、「学校が楽しい。」という声を聞くとき、教員としての喜びを感じます。



地域全体で子供を育てる「地域連携」の取組

宮城県では、平成17年度から、「みやぎの協働教育」を推進しています。「協働教育」とは、家庭・地域と学校が連携し、地域全体で子供を育てる教育活動です。耕野小学校でも、「耕野の魅力を発信しよう」というテーマの下に行われる総合的な学習など、地域と連携し様々な教育活動が行われています。

耕野地区では蜂谷柿が特産品です。蜂谷柿は、ころ柿（干し柿）に適した品種であり、耕野地区では、11月中旬頃からころ柿づくりが行われます。耕野小学校では、ころ柿づくり体験を地域と連携して行っています。子供たちは、柿の収穫を行った後、地域の方々と一緒に皮むきの作業を行います。その後、販売活動にも取り組みます。販売活動を行うに当たっては、地域での農産物を販売している方をゲストティーチャーにお迎えして学習会を行い、昨年度は、2月に仙台の商店街で行われた丸森物産市に全校で参加し、約750個用意したころ柿を完売することができました。



また、子供たちが考案した「ころ柿を使ったチーズケーキ」は、丸森町内のカフェで販売していただきました。「ころ柿を使ったチーズケーキ」が商品化されると知った時の、子供たちの喜びと達成感は、子供たちの思いを実現するために、地域の方々と連携して準備を行ってきた教員の喜びと達成感でもあります。



干し柿と並び、孟宗竹の「竹の子」も有名です。子供たちは、耕野の竹の子を県内外にPRするためにパンフレットを作成し、竹の子が出荷される時期に合わせて、PR活動を行っています。今年、4月27日に福島県へ行き、PR活動を行いました。また、毎年、地域の方々の協力をいただき、竹の子掘りを体験しま



す。この学習活動を通して、子供たちは、郷土のよさを実感し、郷土を愛する気持ちを強くもちます。地域と連携した教育活動は、教科書では教えることのできな

い体験や学びがあり、子供たちの思いや夢を実現することができます。また、郷土を誇りに思い、郷土を愛する子供を育てる魅力溢れる教育活動を行うために、まず職員が地域を歩いて学ぶことを心掛けています。



教員を目指す皆さんへ

「耕野小学校は、人数の少ない小さな学校です。豊かな自然と地域の方々の温かい力に支えられて、子供たちに豊かな心と確かな学びを育てている素晴らしい学校です。教員として本当に、働きがいのある学校です。耕野小学校の子供たちをよろしく。」と前校長からバトンを受け取って2年目を迎えました。

わたしたち「チーム耕野小」は、「めんこい耕野の子供たちをよりよく育てるために」力を合わせて日々の教育活動に取り組んでいます。職員室では、「〇〇さんのシャトルランは、100回でしたよ。頑張ったね。」「全校図工の時間に描いた桜の絵、いい仕上がりですね。」「もっとはっきり話せるように、みんなで指導していきましょう。」等、子供たちのことがいつも話題になります。全職員で9名の子供の指導を行い、日々の小さな成長をみんなで喜べることを幸せに思います。今日もそれぞれの教室から、はっきり音読する声や元気な笑い声、美しい歌声が響いています。きっと、夕方の職員室は子供の話題でにぎやかになることでしょう。

教員を目指している皆さん、宮城県の特徴ある地域でたくさんの子供たちと出会い、未来を担う子供たちのために共に働きましょう。

